

平成21年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山工業高等学校 学校長名：西脇 英雅

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 校訓である「質実剛健」のもと、健全な心身の発達に努め、自主自立の精神をもって工業技術を体得し、我が国産業発展の原動力となる生徒を育成する学校 勤労を尊重する精神を養いながら自らの個性を伸ばし、わが国産業の発展に貢献できる心身ともにたくましい生徒
------------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 新校舎建築完成に伴い、新校舎への移転を計画的かつ円滑にすすめる。
	2 生徒指導をより効果的におこなうため、学校謹慎を有効に活用する。
	3 学力向上に向けて、授業の充実と基本的な学習習慣の定着を図る。
	4 地域産業界との連携を密にして、有為な人材を育成する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価

重点目標					年度評価 (3月15日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
重点目標 1	新校舎の建築が9月末に完成予定であるが、その後検査が終了すると新校舎に移転する予定である。その際、学校運営に支障が出ないよう、全職員の協力を得て、計画的に移転する必要がある。	職員会議で全教職員に移転計画を提示し、全職員の協力を得ながら、計画的かつ円滑に移転することができるか。	職員への周知徹底	職員会議で情報交換し、意思疎通を図る。	○移転計画については、ほとんどの職員(79%)が把握する事ができた。 ○移転計画は、ほぼ予定通りに終了することができた(86%)。 ○全職員で協力し、移転することができた(87%)。	B	○工事や新校舎の使用上の注意点を守れない生徒がいる。 →ホームルームやアセンブリ等で解体工事・外構工事・耐震工事・大規模改修工事や新校舎の使用上の注意点について、徹底した指導を行う。
			移転計画の立案と提示	職員会議で移転計画を提案し、全職員の了承を得る。			
			職員間の協力体制の確立	移転計画に基づく職員間の協力体制を確立する。			
2	昨年度、家庭謹慎を中心として、学校謹慎も場合によって折り混ぜながら特別指導を実施した。延べ88名の生徒を指導したが、さらに本年度は問題行動に応じ、学校謹慎を増やし指導の充実を図りたい。	学校謹慎を生徒の家庭環境や問題行動の内容に応じて、どれだけ有効に活用することができるか。	学校謹慎の積極的な活用	学校謹慎を50%以上実施する。	○本年度も問題行動に対し、学校謹慎を有効に活用することができた(86%)。 ○生徒の問題行動に対し、関係諸機関や教育相談と連携できた(81%)。	B	○生徒指導件数が減少傾向にあるが、基本的な生活習慣が確立できていない生徒が年々増加している。 →遅刻や授業中の態度、ピアスや服装などの基本的習慣の確立に向けて、全職員が協力して取り組む。
			関係機関や教育相談との連携	関係諸機関との連携を密にする。問題行動に応じ、教育相談と連携する。			
3	生徒の授業への参加、取組の姿勢に消極的な部分が見受けられる。また、昨年度学校開放週間中に授業公開を実施したが、本年度は研究授業を積極的におこない、授業改善に取り組む。	教員が授業研究等を積極的におこない、生徒の主体的な学習を促す授業改善がおこなわれているか。	授業規律の確立	管理職による授業巡視回数を増やす。	○教員や教科により、授業規律に大きな差があった。 ○2学期に全ての教科で、研究授業を実施した。 ○生徒評価を効率的に活用できている(67%)。 ○2/3～4に1・2年生の実力テスト(国、社、数、理、英、専)を実施した。	B	○研究授業を実施したが、形式的になっている。 →研究協議の内容が授業改善につながるよう工夫する。 ○生徒評価で、授業中うるさくて、集中できないという声があった。 →管理職だけでなく、各専門科で授業中の巡回指導をおこなう。
			研究授業や公開授業の積極的な実施	本年度、全ての学科で研究授業を実施する。			
			生徒評価の効率的な実施と活用	生徒による授業評価アンケートを本年度も実施する。			
4	「地域産業担い手育成プロジェクト」事業により、企業技術者による授業を実施している。しかし、専門教員の資質向上のため、企業研修を充実させ、生徒のキャリアアップを図る必要がある。	地域企業との連携や教員の企業研修を、さらに充実させているか。	地域企業との連携を密にし、求める人材像を研究	地域企業担当者の意見をできるだけ多く聞く。	○2/16に企業の授業参観を実施し、様々な意見を頂いた。 ○5社の地域企業で、計9名の教員が研修を実施した。 ○3名のデュアルシステム及び1年生対象のインターシップを含め、キャリア教育に取り組んだ(86%)。	B	○「地域産業担い手育成プロジェクト」事業が終了し、企業との連携に予算的な問題がある。 →キャリア教育の充実に向けて、県や経営者協会と連携しながら、地域企業との連携を継続しながら取り組む。
			地域企業での教員研修の充実	教員研修者数を10人とする。			
			生徒のキャリア教育の充実	デュアルシステムを含め、学年毎に計画を立てる。			

学校関係者評価

平成22年2月25日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ○自転車通学者の交通ルール(信号無視や夜間の無灯火)や交通マナーの指導を強化して頂きたい。 ○キャリア教育やインターシップなど、一年生の時から指導してくれたことに感謝している。 ○学科改編・新校舎の完成等、施設設備が充実してきた。その結果、これから入学してくる子供達に大きな期待を持たせることになってきたと思う。それだけに、教員自身の資質の向上を図ることが、強く望まれる。また、生徒に対しては、「和工卒はやはりしっかりしているなあ」と言われるように、礼儀や人に接する態度を身につけさせる指導を徹底して欲しい。